



最先端のパッケージング ソリューション・プロバイダーへ

TAKEMOTOは既製ボトルで
お客様のモノづくりのお手伝いをします。

第69期 中間期 株主通信

2019年1月1日 → 2019年6月30日

■ トップメッセージ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社グループは、パッケージングソリューション・プロバイダーとして、生活上必要不可欠な容器-カタチ(容)あるウツワ(器)-を通じて、お客様の商品である内容物の価値を安全に包み、さらにその価値と個性化を高め「世界の器文化に貢献」することを使命としています。

当2019年第2四半期連結累計期間の業績につきましては、中国国内でのインターネット販売業者への規制強化や昨年完成した生産拠点の減価償却費の増加の影響などで、前年同期比で売上高は微増ながら営業利益は微減となりましたが、当社グループといたしましては引き続き中長期的な視点でスタンダードボトルを軸とした新製品開発と製品供給能力の向上を進め、日本と中国での市場を拡大しつつ、インドや欧米での市場も確保していくことを目標としています。

さて、包装容器業界では、プラスチック樹脂を対象とした環境への取り組みが大きな課題となっています。プラスチック製の包装容器に関しては、

持続可能な発展に貢献する資源として有効活用を進めていくことが基本方針として示されていますが、従来からの包装容器の開発基準や価値観が大きく変わる可能性があり、当社としても的確な情報収集を行い、新しい基準に適合した容器開発を進めるとともに、包装容器分野での新事業の創出も目指していきたいと考えています。

当社を取り巻く環境は常に変化しています。この環境変化に柔軟に対応するとともに、世界への進出に伴い、お客様要望への対応件数や質的な難易度が大きく増えてきています。このような課題に対応するためには仕事の回転スピードや生産性を常に向上させていくことが重要です。具体的には、営業・開発・生産の各部門が効率よく対応できる社内体制の強化を進めると同時に発展著しいデジタルツールを積極的に活用していくことを目指します。これまでは分散していた容器開発のノウハウをデータベース化して、世界中どこでも共有できるようにすることや、製品設計の場面ではお客様に画面上で製品デザインを確認していただきながら、金型設計も同時に進められる最新ツールの活用準備も進めています。当社グループの研究開発拠点として本社近くに開設予定の TOGETHER LAB では、お客様との商談においてデジタルツールと3Dプリンタを利用して新製品開発の効率化を可能とするデジタルとリアルの協働の場として活用していくことを計画しております。

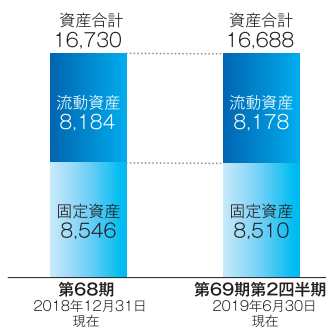
株主の皆様には、今後ともより一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 竹本 笑子

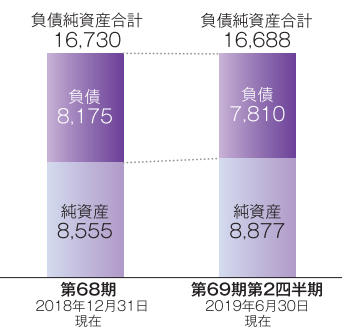
連結財務諸表

連結貸借対照表 (単位:百万円)

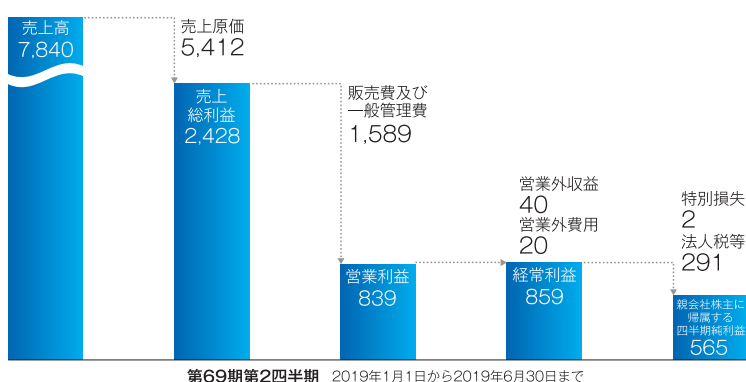
資産の部



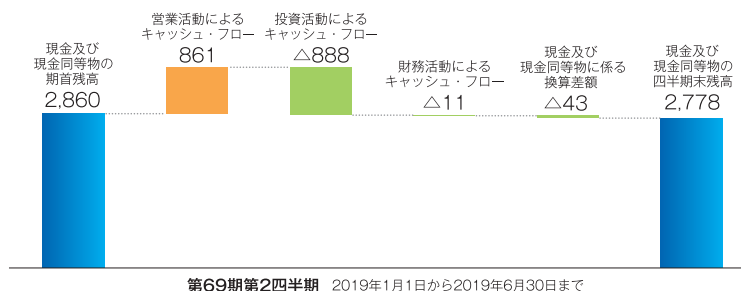
負債・純資産の部



連結損益計算書 (単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)



POINT

●純資産

純資産は、前期末と比較して3億22百万円増加の88億77百万円となりました。主な変動要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益計上による利益剰余金が5億65百万円増加し、剰余金の配当が1億25百万円であったこと及び為替換算調整勘定が1億21百万円減少したことによるものであります。

●業績

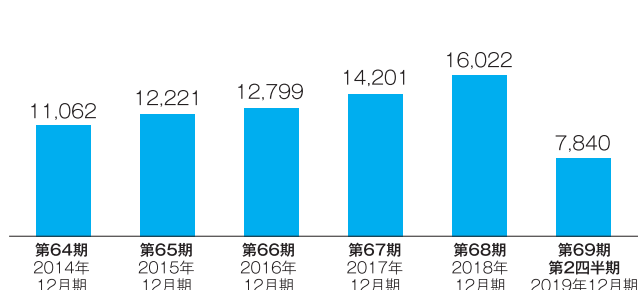
日本国内は化粧品向けを中心に堅調な需要が続く中、開発提案型営業を展開してきたお客様からの需要も継続し、スタンダードボトル、カスタムボトルの販売額は伸長しました。一方、海外ではEC(電子商取引)規制による中国需要の減少や米中貿易摩擦などの影響を受けました。これらの結果、当第2四半期の売上高は78億40百万円(前年同期比2.0%増)となりました。営業利益は原材料価格負担増が想定内の微増にとどまりましたが、海外市場の費用増等により、8億39百万円(前年同期比2.3%減)となりました。

●営業活動によるキャッシュ・フロー

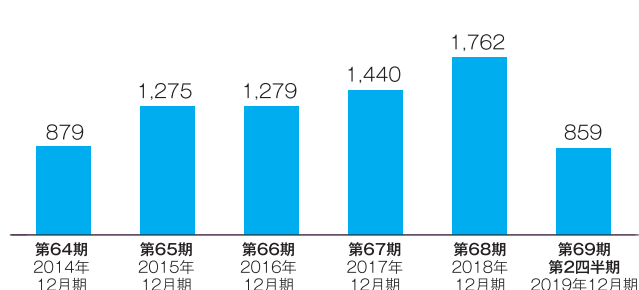
営業活動の結果得られた資金は、8億61百万円となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益8億56百万円、減価償却費5億40百万円であり、支出の主な内訳は、法人税等の支払額3億2百万円であります。

連結決算ハイライト

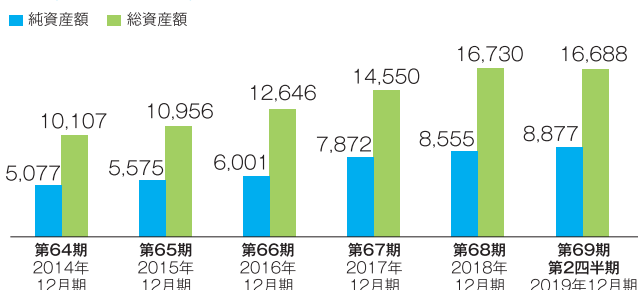
売上高 (単位:百万円)



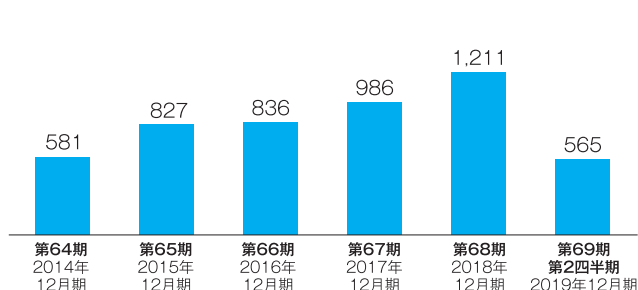
経常利益 (単位:百万円)



純資産額／総資産額 (単位:百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



トピックス

製品カタログ リニューアル



毎年100を超える新製品を掲載するために、当社グループの製品カタログは毎年内容を更新しています。今年、7年ぶりに表紙デザインも変更するリニューアルを行い、日本語版、中国語版、英語版それぞれの新カタログを発行しました。

昨年より提携しているContainer社にデザイン監修を受け、当社グループの製品コンセプトを発信するとともに、容量と材質により掲載ページが確認できるインデックスを新設するなど、利便性も向上させています。

新たにインド国内のお客様向けの製品カタログを制作しました。進出間もないインド国内で営業活動を強化し、生産拠点とともにインド国内の需要に応えてまいります。



インド製品カタログ

新製品情報

当社グループにおいて開発した新製品の一部を紹介します

日本

DI肩リング・CAPシリーズ

化粧品をターゲットにした新しいキャップやパーツを作成いたしました。華やかさと開けやすさを兼ね備えたダイヤカットのデザインです。既製品と組み合わせて使用でき、トータルコーディネートも可能で店頭ディスプレイも華やかに演出できる新しいシリーズです。



DI肩リング・CAP

DBIボトルシリーズ

メール便対応可能な薄型ボトルシリーズを作成いたしました。商品の表示スペースが大きくとれる形状で、商品のアピールがしやすくなっています。様々なキャップを組み合わせ、幅広くご使用いただけます。



DBIボトル

中国、アメリカ、インド

FOLD、ARCシリーズ

Container社のデザインしたコンパクト容器です。
この容器はインドで生産し、日本を除く世界で販売予定です。



FOLD

ARC

KF、KJシリーズ

KFシリーズは、片手で開閉できるワンタッチキャップとボトルが一体となり、おしゃれでやさしい印象の角型容器です。

KJシリーズは、ストッパー付きキャップとジャー容器が一体となり、おしゃれでやさしい印象の角型容器です。

KFとKJはシリーズとして幅広い用途でご使用いただけます。



KF

KJ

設備投資の進捗

TOGETHER LAB

当社グループは、Standout(際立つ、優れた)な価値創造を可能とするパッケージングソリューション・プロバイダーとなることを目指しており、当社グループの研究開発とお客様に対する新製品提案を行う拠点として、東京都台東区にラボの建設を進めています。

第68期(2018年12月期)の株主通信では「Standoutラボ」としてご紹介していた名称は、最新の3D CADや3Dプリンタなどを活用し、お客様と一緒に新製品の開発を進める拠点として名称を「TOGETHER LAB」と決定し、2020年3月の本格稼働へ向けて準備を進めています。



TOGETHER LAB

岡山事業所

食品向け容器を主に生産していた大阪の拠点を移設して2016年に開業した岡山事業所は新たな生産棟建設が2018年8月に竣工し、既存棟の改修工事を行っていました。2019年6月にこの改修工事が完了、新たな生産機械の搬入を行い二棟体制での稼働が開始しています。今後は順次生産機械を設置し需要に対応する供給体制の確保、並びに食品市場の多様なニーズに対応した製品供給力の強化を予定しています。



岡山事業所

インド事業

インドのサナンド工場は2018年7月より商業生産を開始しており、2019年6月末時点のインド子会社勤務の従業員は40名を超え、日本や中国から移動した金型も37型となっています。品質を重視しながら現地で獲得したお客様からの新製品開発を進めています。



インド サナンド工場

▶ 展示会情報

世界6か国の展示会に出展しました

2019年上半期において、当社グループでは、世界6か国で開催された展示会に出展しました。各展示会では機能性に優れた容器や付属品、環境対応容器、カラフルかつ多様なサンプル容器の展示など数多くの製品を紹介いたしました。また、5月に開催した日本の展示会では今年リニューアルした新しい製品カタログに合わせてブースをデザインし、来場されたお客様へ最新のコンセプトを強くアピールしました。



化粧品産業技術展 CITE Japan 2019



中国美容博覧会 (CHINA BEAUTY EXPO)

展示会出展一覧

展示会名	会期	開催地
PCD PARIS 2019	2019年1月30日～31日	フランス／パリ
Luxe Pack New York 2019	2019年5月15日～16日	アメリカ／ニューヨーク
化粧品産業技術展 CITE Japan 2019	2019年5月15日～17日	日本／横浜
中国美容博覧会 (CHINA BEAUTY EXPO)	2019年5月20日～22日	中国／上海
Cosmetics Business 2019	2019年6月5日～6日	ドイツ／ミュンヘン
Cosmoprof India Mumbai 2019	2019年6月12日～14日	インド／ムンバイ

株主優待制度について

当社では、株主の皆様の日ごろからのご支援に感謝するとともに、株主の皆様に当社製品を実際にご利用いただくことを目的として、下記の通り株主優待制度を設けています。

【株主優待制度の概要】

(1) 株主優待制度の対象となる株主様

毎年12月31日現在の株主名簿に記載または記録された100株以上保有の株主様を対象といたします。

(2) 株主優待の内容

保有株式数	優待内容
100株以上	当社が企画開発したオリジナル容器を包装容器に使用した特選品

(3) 贈呈の時期

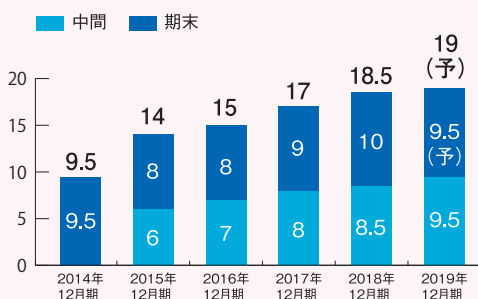
株主名簿確定後にオリジナルボトルの製造を行い、毎年4月に発送しております。

配当について

当社は、株主の皆様に対する利益還元におきまして、配当性向水準に留意し、業績に対応した成果の配分を行うことを基本方針としています。2019年12月期の中間配当につきましては、1株当たり9.5円といたしました。期末配当につきましては、9.5円を予定しております。

なお、当社は、2019年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、2018年12月期以前の1株当たり配当金の金額は、当該株式分割の影響を考慮して記載しております。

1株当たり配当金の推移(円)



第68期定時株主総会、事業説明会開催のご報告

2019年3月26日(火)午前10時より浅草ビューホテル 飛翔の間において、第68期定時株主総会並びに、昨年に引き続き同一会場にて、株主様との対話を目的に事業説明会を開催いたしました。

事業説明会では、当社社長から事業内容と中期計画について説明させていただき、海外拠点責任者三名から海外での事業展開について詳細な説明をさせていただきました。

■ 会社概要／株式の状況 (2019年6月30日現在)

会社概要

商 号 竹本容器株式会社
Takemoto Yohki Co., Ltd.
代 表 竹本 笑子
設 立 1953年5月19日
所 在 地 〒111-0035
東京都台東区西浅草一丁目5番15号
資 本 金 8億314万4,725円
事業内容 プラスチック製等の包装容器の製造及び販売

役 員

代表取締役社長 竹本 笑子
常 務 取 締 役 深澤 隆弘
取 締 役 竹本 えつこ
取締役(監査等委員) 穴田 信次
田中 達也
石川 雅郎
二宮 洋

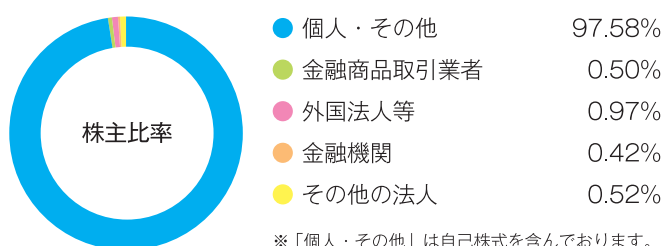
株式情報

発行可能株式総数 40,997,600株
発行済株式の総数 12,528,400株
株 主 数 4,224名

大株主（上位10名）

株主名	所有株式数（株）	議決権比率（％）
竹本 笑子	3,370,000	26.90
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社（信託口）	850,900	6.79
若竹持株会	651,000	5.20
竹本 えつこ	611,400	4.88
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社（信託口）	537,900	4.29
深澤 隆弘	532,000	4.25
資産管理サービス信託銀行 株式会社（証券投資信託口）	482,800	3.85
竹本 雅英	400,000	3.19
深澤 英里子	220,000	1.76
野村信託銀行株式会社（投信口）	205,700	1.64

株式分布状況



事業拠点

日本で販売する製品は、一部を除き、日本国内の自社工場（6工場）及び協力メーカーで生産されています。一方、海外で販売する製品につきましては、主に、上海竹本容器包装有限公司、竹本容器（昆山）有限公司、TAKEMOTO YOHKI INDIA PRIVATE LIMITEDで生産されています。



株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで
期末配当金受領
株主確定日 12月31日
定時株主総会 毎事業年度の末日翌日から3ヶ月以内
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
（同連絡先） 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電話0120-232-711（フリーダイヤル）
公告の方法 当会社の公告方法は、電子公告としております。電子公告は当社ホームページに記載しており、そのアドレスは以下のとおりです。
<http://www.takemotokk.co.jp>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。